

京都大学理学研究科・理学部数学教室同窓会 役員会 議事録

日時：令和6年5月25日（土）14:00～16:00

場所：理学研究科3号館108セミナー室

出席者：井川満、重川一郎、池田保、木坂正史、平賀郁、吉川謙一、菊地克彦、
浅岡正幸、岸本展、田中紀子

2023年10月28日開催の総会において、2023年度末(2024年5月末)をもって井川満氏が会長を退任し、2024年度からは重川一郎現副会長が会長に就任することが決定された。

それを受けて、会の冒頭に井川氏より、準備時代から現在までの経過が振り返られた。

同窓会発足から9年、準備会の活動から含めると約10年が経過した。

同窓会設立の相談において、設立される会が同窓生に自然な形で受け入れてもらうには、中心となる人をどう選ぶかが大切であることの認識にたって、候補者を選定をおこなった。

2014年4月にその候補者として西田吾郎氏を選び、西田氏に設立活動の中心になることを依頼し、了承をえた。西田氏が中心となって同窓会発足への活動が始まり、同年5月に第1回の準備会を開くことが決められた。西田氏は同年4月下旬に体調を崩され、同年6月に亡くなられた。そのため、具体的な活動は、西田氏を引き継ぐ形で井川氏を中心に進められた。

ついで井川氏より、この9年間の同窓会の活動の反省等が述べられ、意見交換がなされた。反省・課題などとして挙げられた事柄は以下のものであった。

- (1) 同窓会支部、特に東京支部の設立が考えられたが、具体的な作業には入れなかった。
- (2) 同窓会の愛称を募集したが、募集期間中にコロナ禍もあり、愛称決定を断念することとなった。断念したことについて、井川会長より応募者にお詫びの連絡をした。
- (3) 学位記授与式において卒業生あるいは修了生の同窓会からの顕彰、あるいは教室員の顕彰が話題になった。

しかし、どのような賞が同窓会として相応しいか、また顕彰制度を運用するには、数学教室(教授会合等)の協力が不可欠であり、実現には多くの簡単ではない課題があって、具体化に向けての話は進まなかった。

- (4) 同窓会の活動の実働メンバーは、発足以来ほぼ変わっていない。どのような形で新しいメンバー、特に若いメンバーに加わってもらうか、方法を考える必要がある。
- (5) 会計事務、名簿事務等は、発足以来田中紀子氏、篠崎由加里氏に依存している。活動維持のためにも、事務に加わってもらう人物を探す必要がある。

さらに、以下の件が話し合われた。

- 総会行事で、毎回講演会が行われている。ここまでの講演会は大変有意義なものであり、同窓会の行事に止めるには惜しいものばかりであった。

Web ページ等で公開されているが、次第によっては雑誌等で掲載してもらうのもよいであろう。

- 数学教室と同窓会との協力関係を、より強くするのがよいであろう。現在までの会費や寄付金等からなる同窓会の所持金を活かす方法を検討してはどうか。
- 毎年度新会員となる学部卒業生、修士課程修了生との関係を維持することはできるだろうか。

学部卒業生との関係を維持するのは、このご時世では難しい。修士課程修了生との関係を維持する方が容易ではないか。学位記授与式後の懇親会の機会に関係を強めたい。教室懇親会の幹事を務めた学生は、修士課程修了後にも中心として動いてくれるのではないか。

井川現会長は当面副会長に留まり、さらに國府寛司会員がもう一人の副会長に就任する。

重川次期会長より、今後の活動での現役員へ今後の協力が求められた。

当面の活動としては、10、11 月頃に総会行事が開かれる。総会行事での講演会の講師候補の名前を挙げることが求められた。

役員会を終わるに際して、重川次期会長より井川現会長のこれまでの働きに感謝の意が表された。

以上、散会となる。